第７回三重県地方創生会議概要

１　開催状況

○日　　時：令和元年８月９日（金）14:00～16:15
○場　　所：ＪＡ三重ビル本館５階　大会議室
○出席委員：池村　均　　三重県農業協同組合中央会　専務理事
石阪　督規　　埼玉大学　教授
伊藤　惠子　　三重県経営者協会　副会長
伊藤　理恵　　特定非営利活動法人マザーズライフサポーター理事長
岡本　直之　　三重県商工会議所連合会　会長
笠井　瑞穂　　三重県商工会連合会　女性部連合会　会長
金森　美智子　日本労働組合総連合会三重県連合会　副会長
駒田　美弘　　三重大学　学長
櫻井　義之　　三重県市長会　会長（亀山市長）
下角　圭司　　三重労働局長
舘　　健造　　日本放送協会　津放送局　局長
田中　秀人　　株式会社百五銀行　取締役専務執行役員
（株式会社百五銀行　代表取締役会長代理）
谷口　友見　　三重県町村会　会長（大紀町長）
服部　　弘　　三重県漁業協同組合連合会　常務理事
村田　典子　　三重県中小企業団体中央会
三重県中小企業レディース中央会　副会長
鈴木　英敬　　三重県知事

２　意見交換

○ライフプラン教育の推進について、赤ちゃん触れ合い体験は、すべての市町の小中高、どこかの学年で体験できると命の大切さを実感でき、成人してからの子どもへの接し方など、好影響を与える。

○結婚に関して、安定した仕事と収入があって、出会いがあって結婚に結び付く。収入に不安があると、結婚に踏み切れないので、まず、働くという施策で農林水産業や中小企業の振興、企業誘致を促進して、一層安定した仕事と収入の確保を推進してはと思う。

○結婚、出産、育児について、ワーク・ライフ・シナジーと言うか、ワークとライ

フで相乗効果を発揮していく気持ちでやる必要がある。休み方改革、女性活躍改革、さらには生き方改革であるという考えを持ってやっていくべき。

○男性が育児休暇を取ることは、母親の気持ちが分かり、お互いの理解につながるという間接的な効果がある。大いに推進していく必要がある。

○育児について、男性が参画すると褒められるが、女性が育児しても誰にも褒められないので、女性を褒めるような環境づくりも良いのでは。

○イクボスをどんどん進めてもらい、女性が社会に出るために支えていく男性が増えれば、結婚してもいいかなと考える女性が増えるのでは。

○多くの母親を見守っていると、子育ての知識は持っているが自己肯定感が低いため、周りの人のアドバイスにものすごく傷ついて、外に出るのも怖くなり、結果、地域に出ていかないという母親もいる。地域の見守り体制をいくら整えても、母親の心をまずケアし、地域の人に子育てをシェアしていくという意識がないと地域と母親を結び付けるのは非常に難しい。

○就職支援協定を県と結んでいる関西地区の大学に企業の採用担当者が訪問する、「三重県『産・学』就職情報交流会 in 関西」では、予定を上回る参加があった。こういった機会を作ってもらうことは有意義である。

○就職支援協定校が 18 校と増えてきているが、協定後の成果がまだ、各企業に届いていない。もっと行政と経済界が一緒になって、情報発信をし、インターンシップを含め、働きかけを行う必要がある。

○女性が仕事と家庭を両立させながらキャリアアップをはかっていく際、環境の整備や本人の意識改革において、男性の育児参画が大きなポイントになってくると考えている。ぜひ、県をあげて男性の育児参画に向けた活動を広め、女性が働きやすい県とか男性育児参画先進県と言った観点で地域のプレゼンスの向上をはかってもらいたい。

○学生はネットやスマホで企業情報を集めるが、就職専門サイトで見ると多くの情報が一度に入ってくる。その中に三重県の情報がどれだけ入っているか。商工会や商工会議所、ハローワークやおしごと広場みえのＨＰで企業のリンクがはられているが、それぞれ独立している。若い人たちの要望に応えるために、一度にまとめて情報が入り、企業が見つけやすいサイトを県で用意できないか。

○小さい企業では、ＨＰに情報をうまく載せられない企業もあるので、行政と商工会、商工会議所が連携して、学生が知りたい情報が上手に伝わる企業ＨＰづくりの指導や協力体制をとってもらうと良いのでは。

○移住の促進について、三重県ではご近所付き合いが大事。移住先での人間関係のケアについても行政がアドバイスをすると良いのでは。

○U ターンの関係では、Ｍｉｅｍｕや美術館で松浦武四郎展や本居宣長展などを積極的に取り上げ、郷土が生んだ偉人を知り、郷土に誇りを持てるような教育をしていくことで、郷土愛が育まれ、郷土に戻ってくる一助になると思う。

○大卒者の約３割が３年以内に離職しているというところにも、Ｕターン人材が存在すると思う。そういう人に情報発信ができればと思う。また、Ｕターン人材にもＩターンと同じように支援をすると効果的ではないか。

○県外進学者のＵターンについて、就職時が一番多いが、20 代半ばから 30 代半ばの離職時も一つのタイミングである。こういった離職者もターゲットに企業情報を適切に発信していくことも大事だと思う。

○安全・安心について、避難所が開設された際、女性が運営メンバーにどれだけ入っているかが重要。物資管理やプライバシー保護において、女性目線を生かしていけるよう、防災コーディネーターや行政の職員が進めてもらえるとよい。

○三重県の南部地域に足を運んでもらう取組が必要。観光と一次産業の連携を積極的に取り組む体制を作ることや、一次産業に魅力を感じてもらう取組が必要と感じている。

○高齢者対策として、高齢者の住みやすい街というのは、誰にとっても住みやすい街になる。これから高齢者の人口増加、認知症の方の増加は避けて通れないと思われる。現在、これらの対策は地域包括支援センターが中心となっているが、県内企業と連携した見守り支援など広域で活動を行っていくものができないかと考えている。

○かつては、郊外の戸建てが好まれたが、コンビニまでの距離など、住む場所に求めるものに変化が生じている。三重の若者が今住んでいるところが住みやすい、子どもが育てやすいと思っているのか。例えばアンケートで県民の実態を調査し、政策に反映、実行してはどうか。

○交流人口の拡大について、中長期的には、経済環境が大きく変化し、交流人口拡大により地域創生につながるビッグチャンスということで、リニアについても県民が興味を持つよう、県民に啓発するような取組をやってもらえたらと思う。また、同時にどうしたらリニアが三重の発展につながるかも、調査研究を続けてもらえたらと思う。

○関係人口という言葉がクローズアップされ、別のところに住んでいて、働く時だ

けここに来るなど、地域に何らかの働きかけをする人物を増やしていくこともクローズアップされてきた。三重のファンを増やしていく取組にも重きを置いて位置付けないと、人口が伸びていかないと思う。

〇北と南といった圏域レベルでの政策アプローチも必要ではと考えている。
〇次期総合戦略の基本的な取組方向について、魅力あふれる地域づくりの中に、マイクロプラスチックなどの環境の項目を入れてはどうか。
〇次期総合戦略の基本的な取組方向では、仮称であるが、希望がかなう少子化対策や未来を拓くひとづくり、活力ある働く場づくり、魅力あふれる地域づくりとあって、それぞれ想定される取組が記載されており、非常に分かりやすい。